

香川県立高瀬高等学校の皆さん

9月定例会

- ②【特集】高校生との意見交換会
- ④【特集】市政に対する要請書、議会報告会結果報告
- ⑩特別委員会審査
- ⑪定例会概要・視察受入
- ⑬一般質問
- ⑭議会日誌
- ⑮常任委員会審査
- ⑯【特集】議会防災訓練
- ⑰スポーツ少年団紹介

<https://www.city.mitoyo.lg.jp/gikai/>

スポーツ少年団紹介



豊中スポーツ少年団（軟式野球）

豊中スポーツ少年団は、豊中小学校を拠点に活動する児童軟式野球のチームです。小学校1年生から6年生の仲間たち14人で日々練習に励んでいます。みんな仲が良く、野球が大好きです。仲間や家族、周りの人たちに感謝する気持ちを持ち、全力プレーで勝利を目指しています。体験・見学はいつでも大歓迎です。一緒に野球しようよ！

活動場所：水／豊中中学校
金／豊中サン・スポーツランド
土・日・祝日／豊中小学校
活動日時：水・金／19時～21時
土・日・祝日／大会等の状況により変動
問合せ先：080-3167-0532（藤田）



MK ジョーカーズ（軟式野球）

MKジョーカーズは、男子16人・女子3人の計19人で活動している軟式野球チームです。野球を楽しむことを大切にしながら、仲間との絆を深め、チームワークを育んでいます。元気いっぱい、楽しく一生懸命練習しています！

野球に興味のある方、いつでも体験・見学OKです。お気軽にお越しください。

活動場所：月／豊中中学校
水／豊中サン・スポーツランド
土・日・祝日／市内施設
活動日時：月・水／19時30分～21時
土・日・祝日／8時～16時
（変更になる場合あり）
問合せ先：090-3785-6015（森）



編集後記

議会だよりには発言された代表質問、一般質問が掲載されていますが、原稿は全て発言した議員自身が作成しています。文字数が限られており、市民の皆さまにお伝えしたいことを、簡潔にまとめるために四苦八苦しています。背景をご理解いただけると、より記事が興味深いものになるかと思えます。とはいえ全てを伝えることは大変難しいので、ぜひ三豊市議会ホームページの中継録画や議事録もご確認ください。

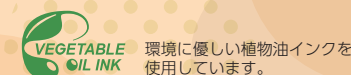
（青井）

広報広聴常任委員会			
委員長	田中 達也	副委員長	瀧本 哲史
委員	水本 真奈美	井出 喜久美	青井 和樹
	香川 貴志	眞鍋 範子	大平 国明



QRコードを読み取ると、市議会のホームページがご覧になれます

*QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です





だて ゆうと
1年 伊達 由登さん

僕は少子化をテーマに議員の方々と話し合いをしました。子育て応援システムなどの制度は市民にとって心強いものだと感じました。少子化は大人の問題だと思っていましたが、僕達も大人になっていく上で向き合う課題だと思いました。



生徒の感想

- 質問しやすく理解しやすかった。市の発展を願い、議会を応援したい。
- 議員や他の生徒の意見がすごく参考になった。別の視点や考えも知ることができた。
- とてもリラックスして楽しく意見交換ができたと思う。これを機に市の課題も良さも、より深く知ることができた。
- 自分たちの意見にしっかり耳を傾けてくれた。その上で、今の制度や政策の現状や難しい点などを話してくれて、とても為になった。やはり、議員は市民の代表なのだった。
- とても市民の意見を大切にしている、誰かのために働いていることがかっこよかった。

議会や議員へ期待すること

- これからも市をより良くするために頑張ってもらいたい。
- ずっと住みたいと思える市にしたい。
- インフラ整備等利便性の向上やいじめを減らす取り組みをして欲しい。
- 市民から聞き取った意見を反映した政策を実行したら、それをテレビやSNSで知らせてほしい。



議員の感想

三豊市は子育てに力を入れているのに、発信が足りないとの鋭いご意見をいただきました。ホームページや広報は県外に出た若者は見えていないため、SNS発信を強め、三豊市に戻ってもよいと思わせる必要があるとのこと。今後の議会活動に生かします。(井出)

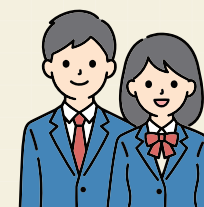
10月9日(金)には、B班の議員が四国学院大学香川西高等学校で、意見交換会を開催しました。その様子は、次号の「議会だより」に掲載します。



香川県立高瀬高等学校 との

kagawa prefectural Takase high school.

意見交換会



市議会議員 20 人が、10 人ずつ A 班と B 班に分かれて市内の高校を訪問し、意見交換会を開催しました。A 班は、9 月 16 日(木)に県立高瀬高等学校を訪問し、生徒 18 人とまちづくりをテーマに話し合いました。

意見交換会の様子と参加した皆さんの感想を紹介します。



はやし ゆうま
2年 林 佑馬さん

最初は議員さんとお話しさせていただくということで緊張していましたが、皆さん楽しく優しい人ばかりだったのでリラックスできました。また、少子化対策など、大好きな三豊の将来に関して熱く意見交換できた時間は一生ものです。



なかがわ なち
1年 中川 那稚さん

今回初めて交流をしてとても緊張していたけど、市議会の方々が優しく、話していくうちに三豊市をより良くするためにどうすればよいかを楽しく考えることができました。

市議会の方々は三豊市のために話し合いをたくさんし、また市民の意見を大切にしているので、私も意見交換などに積極的に参加し、自分ができることをしていきたいと強く思いました。



10月2日

市政に対する要請書を 市長に提出しました

議会報告会に参加いただいた市民の皆さまからのご質問・ご意見の中から、特に重要な案件を抽出し、「市政に対する要請書」としてとりまとめ、議長から市長へ提出しました。

いただいたご意見を、安心して住み続けられる三豊市の実現に活かせるよう、これからも議員一同、しっかりと取り組んでまいります。

項目ごとに要約して、お知らせします。



市政に対する 要請書

① 防災について

全国で豪雨や地震災害により甚大な被害が多発する中、防災意識は高まっているが、本市の防災に関する取り組みについて、市民へ十分に情報が行き届いていないようだ。市が備蓄している非常用物資や指定緊急避難場所、特に廃校となった小学校施設が避難場所に指定されていることについて、市民は不安を抱いている。

市の備蓄物資の情報を共有し、指定避難場所の環境を改善し、市全体での防災訓練の実施等、市民が自発的に災害に対して備えることができるよう、防災に関する取り組みを一層強化するよう要望する。

② 財政改革について

合併特例債の発行期限が令和7年度末に到来し、本市の財政状況は一層厳しさを増している。これ

までと同じ感覚でいると近い将来、財源不足に陥ることは確実である。今こそ業務を見直し、本市の財政力・人口規模に見合った真に必要な業務を実施する、身を切る改革が必要である。そのため、行財政改革関連事項を、令和9年度予算編成までに議会へ報告するよう強く要望する。

③ 市道の整備について

市道の修繕に関する要望が多く寄せられているが、実施可能な工事量には限りがあり、優先順位を付けて対応せざるを得ないのが現状である。しかし、優先順位の基準が不透明で、市民が疑義を抱いているという声も聞かれる。

市の財源がさらに厳しくなる今後においては、さらに取捨選択が必要となり、その透明性の確保が重要である。あらかじめ公表した評価基準で点数化し、工事の優先順位をホームページで公表するよう検討を求める。

④ 体育館の空調整備について

市内中学校は常設空調が整備さ

れているが、小学校はほとんど未整備で、酷暑が生命を脅かす懸念がある。令和10年度末までに移動式エアコンを導入予定だが、冷却力は限定的で根本的解決とは言い難い。全ての小学校が避難所に指定されていることをふまえ、児童の安全確保と災害時の市民の安全・安心のため、常設型の空調設備を速やかに整備するよう強く要望する。

⑤ みとよ市民病院の運営について

地域医療の中核であるみとよ市民病院は、開院以来赤字経営が続ぎ、2年連続で市から借入を行うなど、今後の運営に対し市民の不安が高まっている。市民の命と健康を守る医療体制の確保は行政の責務であるが、毎年億単位の赤字が発生している現状は看過できない。

三豊市公立病院経営強化プラン（みとよ市民病院編）を見直し、経営健全化に向けて持続可能な医療体制を確立し、診療・健診機能の強化を図りつつ、市民が求める良質な医療を提供するよう努められたい。

議会報告会

結果報告

5月に市内7会場で開催した議会報告会でいただいたご意見やご提案の回答を、紙面の都合上抜粋して報告します。市議会ホームページには、全ての質問と回答を掲載しております。ぜひご覧ください。
問は市民の皆さまからのご質問・ご意見、**答**は議会の回答です。

質問と回答の全文は
こちらから



または
インターネットで

三豊市議会

実際の避難所の使い方

問

鍵をどうやって開けるのか、ペットを連れて行けるのか等大事なことは繰り返しアナウンスしてほしい。

イベントで勉強したのだが、ファーストミッションボックスというものがあり、誰でも避難所開

設できるテキストがあるが、どうか。

答

今年度改訂している新しい総合防災マップに掲載し、広報紙、市ホームページ等で事前に周知・啓発すると聞いている。
今年度中に、避難所開設に必要な事項を掲載した簡易的な避難所運営マニュアルを策定する予定である。ファーストミッションボックスの活用も含めて避難所運営体制の充実に努める予定である。



災害時の資機材について

問

防災一般費で購入した設備物資等は、現在どこに保管している、どういうタイミングで、どういう命令系統で、貸出が判断されるのか。

答

備蓄品や資機材は、防災倉庫や指定避難所等で町ごとに分散備蓄している。備蓄品の活用は災害対策本部での決定により実施される。支給する備蓄品は食料や水、毛布等が主で、投光器や自家発電機などは指定避難所の運営での使用を想定した資機材である。

地域防災活動への取り組み

問

小学校の統廃合は地域コミュニティの衰退につながりかねない。自然災害への対応には地域防災が大切であるので、働きかけが必要ではないか。

答

災害時には、地域住民が互いに助け合う「共助」が重要である。今後も自主防災組織の結成や活動の活性化を注視していく。



まちづくり推進隊に代わる 組織への補助金について

問

まちづくり推進隊の交付金を削減し、多様な団体の補助金に回すというような説明だった。具体的にはどういう団体を補助して、どういう活動を期待すると考えているのか。

答

当該事業は、区域内で活動する市民活動団体が、市民生活の向上や地域の振興に資する活動に対して補助を行っており、その活動によって地域が持続的に継続することを期待している。

市の交通、観光政策について

問

財田町の乗合タクシーを活用して観光PRができないか。父母ヶ浜や市役所、宿泊施設をつなぐ路線を新設したり、夜間の運行を検討してはどうか。

答

財田町乗合タクシーは過疎地域での高齢者等の移動支援で、財田町住民を対象とした交通サービスである。市はコミュニティバスを12路線運行し、各駅や市役所、観光地、宿泊施設などを結び、毎年バス停設置箇所の見直しを行っている。夜間は各地域のタクシーを利用してほしい。市は観光産業を主要な産業に発展させるべく、各種政策を講じている。



※ファーストミッションボックス…災害発生時に最初に居合わせた人がその場で協力して迅速な初期対応や避難所開設を行えるように作られた防災ツール

財政運営の切り替えについて

問 合併特例債が終わり、今後は財源確保が一層困難になり、市には大変厳しい未来が待っていると思う。議会の中で知恵を出し合い、市民に迷惑をかけないように頑張ってもらいたい。

答 今後は、市の予算規模を縮小させつつ、行政サービスが著しく低下しないよう、市民と合意形成をしながら持続可能な新しい財政状態を見出したい、という説明が市長からあった。これまでは説明を受ける議会だったが、政策改善を提案する議会を目指し、市民の意見を聴きながら全力で取り組む。

脱炭素社会の実現に向けた取り組み

問 「三豊市独自の脱炭素」は気候変動と生物多様性の損失を同時解決するものであり、心から期待している。今年の気候変動解決のための対策は。

答 市では豊かな自然環境を次世代に継承するため、気候変動対策と生物多様性の確保を重視した施策を進めている。具体的には、森林の再生や若者

世代を中心に環境意識を高めることを目的とした植林プロジェクトを推進している。また、瀬戸内海に広がる藻場や干潟などの豊かな海洋資源を保全するため、産官学金が連携する「瀬戸内渚フォーラム」に参画し、海洋生態系の豊かさを守りつつ、二酸化炭素吸収源となるブルーカーボンの創出にも取り組み、温室効果ガス排出量の削減を図ることとしている。

市道の草刈りについて

問 農家の高齢化により、あぜの草刈りで精一杯である。市としては、これからのことをどのように考えているのか。

答 高齢化等により対応が難しくなってきた状況も認識しているが、市道除草事業補助金を活用しながら、地域での対応をお願いする。

市道の修繕・改修の要望について

問 地元から市に要望を出しても、回答がないものがある。いつ、どのように回答し、解決するのか。

答 市道の修繕・改修要望は、現地確認を行い破損状況や安全

性、緊急性などを総合的に判断し、優先順位をつけて対応しているとのことだ。対応方針については要望時点で自治会長等に伝えている。その後、予算が確保できた段階で地元関係者へ伝えていくつもりである。

市河川の清掃について

問 市が管理する河川の清掃を、地区衛生がしている。4〜5年前から補助がなくなった。補助がないなら、年1回は市で草刈りや清掃してもらいたい。議会から市長へ伝えてほしい。

答 市民の健康増進と環境衛生の向上を図り、健康で住みよいまちづくりを促進するために地区衛生組織があり、その事業活動の中で清掃活動に対して補助を行っている。支部によって補助の内容が異なるので、各支部へ問い合わせしてほしい。

市で草刈りを実施することは難しい。河道に支障となる樹木の繁茂や土砂の堆積等については、担当課が現地を確認し、樹木伐採やしゅんせつ等を実施しているとのことである。



みとよ市民病院の経営と責任

問 広報紙には「自治体として責任をもって運営をしていく」と書かれているが、具体的な目標が書かれていない。黒字化にするとか、できなければどう責任をとるのかと、書いてほしい。

答 現在の医療制度の下、全国の自治体病院は経営改善に向けた取り組みが進められているが、人件費の上昇や物価高騰といった構造的要因により、各病院の努力を上回る速度で経営環境は厳しさを増し、全国の自治体病院の約86%が赤字経営となっているのが現状である。

みとよ市民病院は、地域に不足する回復期の入院医療や、精神科、小児科、耳鼻咽喉科などの不採算医療を担っている。また、感染症流行時には検査体制を支え、災害時には



※しゅんせつ（浚渫）…河川などの水底に堆積した土砂やヘドロを取り除く土木工事

地域の拠点病院として機能するなど、地域にとって必要不可欠な存在である。

全国の自治体病院と同様に厳しい経営状況ではあるが、今後も責任をもって運営するよう求めていく。

小中学校体育館の空調について

問 空調や遮熱はどうなっているのか。体育館の空調設備について、国から期限付きで交付金を出して、順次設置しており、統廃合を行う学校から設置していると聞く。平等に設置していくべきではないか。

答 市内の中学校体育館には、令和7年度に空調設備を設置した。国の補助要件では、空調設備の導入にあたり断熱性の確保が求められていることから、断熱性が確保されている豊中中学校については、建設と同時に導入し、令和8年度には山本小学校および財田小学校の体育館への導入を予定している。今後は、児童数や団体利用数などを踏まえ、小学校体育館への空調設備の導入について、早期に検討するよう求めていく。



問 桑山小学校は避難所となっているが、閉校後の跡地の行政利用や売却処分の進捗状況は。

答 閉校した学校施設は、指定緊急避難場所及び指定避難所の指定を継続している。ニーズの調査を実施し、小学校内の備品については、市内小中学校の教育活動に活用できるよう配分を行うそうである。

学校給食費の無償化

問 政府から給食費の無償化が打ち出された。仮に国の補助金が市の定めた給食費より少なかった場合は、不足金額を保護者の負担とせず、完全に無償化となるよう議会から市長・教育長へ配慮をお願いしてほしい。

答 小学校の学校給食費は、国の交付金を活用して本年4月から無償化されており、食料費が国の交付金を上回る場合は、市がその差額を負担し、保護者に負担を求めている。中学校給食費の無償化については、今後、慎重に検討することとある。なお、食料費が国の交付金を上回る場合の対応は、学校と同様の考えである。

みとよ未来創造館会議室の

オンライン予約

問 会議室やワーキングスペースを予約できるようにしてほしい。

答 県の公共施設予約システムの導入を検討している。令和8年度中には、予約状況を確認できる「見える化」を実施する予定と聞いている。



幅広い世代への議会広聴活動

問 議会報告会などに参加する人は、高齢者が多いと聞いている。そのような環境では若者や女性はそのような環境では若者や女性を言える環境とは言い難い。若者や女性限定の市議会報告会や市政に参加する機会を設けてほしい。

答 議会としても、若者や女性の参加者が少ないことは問題視しており、曜日や時間帯を変えたり、オンライン報告会を実施したり、対策を講じている。いただいた提言も含めて議会の中で検討していく。

市議会議員の定数を2人減らした理由

問 市民は多様化している。多様な意見を取り入れるには、逆に議員定数を増やした方がいいのではないか。経費削減というが、予算が増えない工夫はできる。市独自のルールを定められるのではないか。

答 市の人口が6万人を切り、議員数もそれに合わせて20人にした。貴重な考え方として、議会の中で共有したい。



市の施策を評価しました！

6月30日に決算・事務事業評価特別委員会を設置し、7月から8月にかけて、決算審査の在り方や議会事務事業評価について、調査研究を行いました。その結果、本特別委員会に分科会を設置して対象事業の選定方法を見直し、令和7年度に実施された全ての事務事業のうち、一般財源を主とする事業を対象として重点的に検討を行った上で、評価対象事業に9事業をピックアップしました。

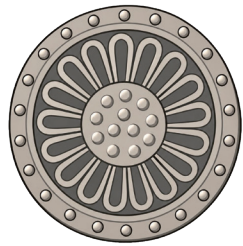
令和7年度に三豊市が執行した事務事業を評価することで、市長部局においてその評価を踏まえ、今後の予算編成や施策の推進に取り組んでもらうことを目的に実施しました。本特別委員会で行った評価の結果は、9月定例会最終日に、議長から市長に提出し、施策等への反映状況を議会に報告することを求めました。

必要性、妥当性、達成度、費用対効果などから、**拡充、維持、縮小、統合、休止、廃止、完了の7区分**で評価しました！

がよう 宗吉瓦窯史跡公園管理運営事業 **縮小**

●**主な理由**
来館者の状況を踏まえ、効率的・効果的な施設運営を検討する必要がある。「縮小」の評価は、史跡の歴史的価値や役割を否定するものではなく、限られた財源や人員を有効に活用しながら、より効果的な運営方法を検討することで、宗吉瓦窯史跡の価値を将来にわたって継承していくための前向きな結果である。

●**今後の改善、提案**
運営方法や更なる体験学習等について検討し、情報発信や完全予約制の導入、常駐職員の配置や開館日の見直しなどによる人件費削減の改善策とともに、対象職員への丁寧な説明やアフターフォローなど、職員への配慮等が必要である。



詫間町民俗資料館・考古館管理費 **縮小**

●**主な理由**
小学生の学習の一環としての利用以外に来館者数が少ない状況を踏まえると、開館日や開館時間、職員配置の見直し、予約制の導入などによる効率的な施設運営と人件費削減が必要である。「縮小」の評価は、単に事業規模を縮小することを求めるものではなく、「現状のままでは十分ではない」との認識のもと、施設の老朽化や利用状況なども踏まえ、将来的な統合を見据えるなど、これから先の施設の在り方についても検討すべきである。

●**今後の改善、提案**
開館日や開館時間の見直し、完全予約制の導入などによる人件費の削減と資料整理の効率化を図るとともに、情報発信やイベント等の充実により、さらなる利用促進と歳入増加につなげる必要がある。



農村公園管理費 都市公園管理事業 **統合** その他公園の維持管理事業

●**主な理由**
現在は所管課ごとに公園の管理をしているが、遊具の法定定期点検や除草、樹木の剪定作業は専門部署が一括管理したほうが、予算の削減や事務処理負担の軽減ができてメリットが大きい。

●**今後の改善、提案**
専門部署が市内公園を一括管理し、利用実態や遊具の耐用年数などを統一的な基準で調査・把握して、近隣施設との機能重複の解消や維持が困難な施設の集約・規模縮小などの持続可能で効果的な公園配置を行う。



市道維持管理事業 **維持**

●**主な理由**
市道や橋りょうの適切な維持修繕や路肩の除草、側溝清掃等は、市民の日常交通の安全確保や生活環境の維持に直結する極めて重要な基本事業であるので、現行の事業水準を継続・維持することは不可欠。

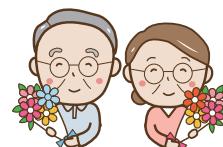
●**今後の改善、提案**
地域から提出される道路修繕や整備に関する要望は件数が多く、事業化まで年数がかかる案件もある。損傷度や通行量、緊急性などを総合的に点数化し評価する客観的なガイドラインを策定し結果を公表することで、要望対応の透明性と優先順位判断の適正化を図れる。



敬老会事業 **維持**

●**主な理由**
高齢者に敬意と感謝を表し、長寿を祝う大切な機会であり、高齢者宅への訪問や敬老会での交流は、孤立防止や見守り、安否確認につながるとともに、地域とのつながりや生きがいを感じる機会となっている。また、参加率も93.96%と非常に高く、多くの高齢者にとって大切な活動となっている。

●**今後の改善、提案**
自治会長や役員の負担、担い手不足、地域のつながりの希薄化、敬老活動の情報が届かない方の増加などを踏まえ、地域の実情に応じた敬老事業の在り方を見直すとともに、対象年齢や戸別配布する記念品の必要性や効果について調査・検討する必要がある。



三豊ベーシックインフラ整備事業 **休止**

●**主な理由**
共助サービスの取組や将来的なデータ活用の可能性は残しつつ、現行事業を一旦休止し、成果指標、費用対効果、事業主体、継続性を明確にし、新たな事業として再構築することが妥当である。

●**今後の改善、提案**
共助サービスの目的を維持しつつ、事業を整理統合して過去の実証データの検証やKPIによるPDCA管理を徹底。個人情報に配慮しつつ今後の活用方針を明確化する。



ふるさと三豊応援寄附事業 (ふるさと三豊応援基金管理事業) **拡充**

●**主な理由**
貴重な財源確保のため、返礼品やブランディングを強化し、地域産品の振興につなげる。寄附者との継続的な関係づくりや、専門部署等の設置により、戦略的に取組を進める必要がある。

●**今後の改善、提案**
専任の担当課・チーム等の設置や中間管理事業者、市内事業者との連携により推進体制を強化し、地場産品や地域資源を活用したストーリー性のあるコア返礼品を開発し、「三豊市だから選ばれる」返礼品を育てること。クラウドファンディング型ふるさと納税や企業版ふるさと納税について、寄附目的の幅を広げ、より多様な活用を進めること。



交通政策推進事業 **維持**

●**主な理由**
「行きたいときに 行きたいところへ 行けるまち」の実現に向けた移動手段の確保、高齢者等の外出機会・社会参加の促進、地域コミュニティの維持という観点から、本事業は引き続き必要。自動運転等の新たな交通手段については、実証実験の結果等を踏まえ、方向性を判断する必要がある。

●**今後の改善、提案**
利用者数や事業費だけでなく、外出機会の創出、社会参加、交通空白地の解消、利用者満足度など、事業目的に即した複数のKPIを設定し、一定期間ごとに検証した上で、事業内容や次年度予算に反映する仕組みを構築すること。



支所管理事業（6支所分） **維持**

●**主な理由**
市民サービスの面から、しばらくは現在の支所機能を維持することは必要。各支所の窓口対応件数は年々減少しているため、ありかたの検討をするべき。

●**今後の改善、提案**
旧町庁舎の単独維持を見直し、市民センターや社会教育施設と複合化・コンパクト化する。税や介護等の複雑な専門業務は本庁窓口へ一本化し、支所窓口には遠隔対応端末を設置して、支所職員の業務負担軽減や配備体制の機能縮小を図る。



決算・事務事業評価
特別委員会

9月3日、11日、18日、24日、
25日、29日に決算審査における委
員会を開催し、令和7年度一般会
計決算など、計11議案について審
査を行いました。

主な質疑と答弁

〔一般会計〕

総務費

問 令和7年度には水防本部を2回
設置して災害対応を行った。今後
の危機管理体制としても大きな負
担を伴う現場の最前線になると考
えるが、その後の検証は行ってい
るのか。職員体制や資材整備など、
今後の対応について伺う。

答 毎年度当初に水防本部の職員体
制や、各避難所を開設する職員な
どを決定し、早期に対応できる体
制を整えている。風水害時には住
民に早期に避難してもらうことが
重要であり、優先的に開設する避
難所を周知している。今年度に総
合防災マップを改訂しており、ハ
ザードマップと併せて周知してい
く。また、令和8年5月末から新
しい防災気象情報の運用が開始さ
れ、警報が発表されるタイミング

も変わっている。气象台と協議・
振り返しを行いながら、夜間の発
表時に早めに避難所を開設するな
ど、避難所の開設時期や避難情報
の出し方について検討している。

民生費

問 令和7年度の産後ケア実利用者
数は65人、交通費助成の利用者は
10人で、利用率が低いと思う
が、重点施策として、この要因を
どう考えているのか。

答 産後ケアについては無償化した
こともあり、令和7年度はこれま
で最も高い利用率となっている。
妊娠8か月相談の際に案内し、出
産後の乳児訪問でも、状況を確認
しながら利用を案内している。

交通費助成については、家族等
が送迎できる場合もあるため、全
ての方が利用する状況ではないが、
平日に産後ケアを利用したい方
で、家族の協力を得られない場合など
に利用されている。令和7年度は、
これまで最も多く利用されたと
考えている。

農林水産業費

問 令和7年度施政方針で示された、
手間暇を惜しまない本市の生産者
の強みに、スマート農業などのテ
クノロジーを加えることで、本市
農業をさらに強化するとともに、
生産したものを様々な形で消費者
に届ける新たな仕組みの構築を目
指すため、必要なプラットフォーム

ムを産・官・学の知見を導入し検
討するところがあるが、その成果は。
答 スマート農業については、農業
振興関係単独県費補助事業におい
て、自動運転トラクターなどのス
マート農業に活用できる補助メ
ニューがある。また、プラット
フォームについては、有機農業産
地づくり推進緊急対策事業におい
て、生産から販売までを見据えた
仕組みを検討しており、売り先を
確保した上で作付していただいで
いる。

〔病院事業会計〕

問 病床利用率が上がらない理由は、
需要がないからか、それとも受入
れができないからか。看護師等は
施設基準に基づいて配置されてい
ると認識しているが、入院患者数
によって受入れが困難になる場合
や、医師数が原因で受入れができ
ない場合など、具体的な状況を伺う。
答 令和7年度は、救急・急患の受
入件数が前年度より減少したこと
が、病床利用率の減少につながっ
たと考えている。看護師の配置は、
患者数ではなく看護体制などの施
設基準に基づいて決まるため、患
者数にかかわらず必要な配置をし
ている。

〔総括質疑関係〕

問 令和7年度の*経常収支比率は

令和8年 第3回
定例会の概要

会期 9月3日～10月2日(30日間)

陳情

一部採択

自動運転実証実験の路線延
伸に伴う安全性検証・住民
合意形成および将来計画の
明確化に関する陳情



認定

決算
令和7年度歳入歳出決算認定

- 一般会計
- 国民健康保険事業特別会計
- 国民健康保険診療所事業特別会計
- 後期高齢者医療事業特別会計
- 介護保険事業特別会計
- 介護サービス事業特別会計
- 浄化槽整備推進事業特別会計
- 港湾整備事業特別会計
- 国道用地先行取得事業特別会計
- 病院事業会計
- 集落排水事業会計



人事案件

(敬称略) 同意

人権擁護委員候補者の
推薦について

三宅 和志(山本町)
河田 治(仁尾町)
白井 基(高瀬町)

可決

補正
令和8年度9月補正予算

一般会計	4億7,396万7千円	増↑
国民健康保険事業特別会計	383億7,023万9千円	
	1億8,771万円2千円	増↑
国民健康保険診療所事業特別会計	68億6,071万円2千円	
	14万7千円	減↓
後期高齢者医療事業特別会計	116万円	増↑
	15億1,216万円	
介護保険事業特別会計	2億866万7千円	増↑
	81億1,696万4千円	
浄化槽整備推進事業特別会計	46万1千円	増↑
	2億3,146万1千円	
港湾整備事業特別会計	155万3千円	増↑
	2,355万3千円	
病院事業会計	1,000万円	増↑
	30億8,770万円	
集落排水事業会計	321万3千円	減↓
	2億2,312万9千円	

視察受入

【夜間中学について】		
7月15日	愛媛県今治市議会	会派(新政会・直心会)
8月 6日	大分県豊後大野市議会	厚生文教常任委員会
10月 7日	山口県平生町議会	産業文教常任委員会
【部活動地域移行について】		
7月23日	茨城県守谷市議会	会派(もりや未来)
【市立松崎こども園について】		
8月 5日	善通寺市議会	教育民生委員会

【バイオマス資源化センターみとよについて】		
8月 6日	福島県議会	企画環境委員会
8月25日	京都市会	環境福祉委員会

【ハラスメント防止条例・議会報告について】		
8月17日	大分県宇佐市議会	議会運営委員会



98・8%で、前年度から0.6ポイン
ト悪化し、県内でも高い水準となっ
ている。*実質公債費比率や*将来負
担比率は良好だが、経常収支比率
が高く、独自施策に使える財源が
限られている。経常経費を将来が
見据えてどう削減していくのか。
今後の財政ビジョンを伺う。
答 経常収支比率98・8%は財政構
造の硬直化が進んでいる表れであ
り、重く受け止めている。人件費
の増加、物価高騰による光熱水費
や委託料等の上昇、合併により多
くの公共施設を保有していること
による負担、高齢化や子育て支援
に伴う扶助費の増加などが主要
因である。
今後は、定員管理や業務改善に
よる人件費の適正化、公共施設の
統廃合・複合化、包括業務委託、
補助金・負担金の見直し、計画的
な市債発行などに取り組み。歳入
面では収収率の向上、財産収入
の獲得、企業誘致等による財源確
保に努める。
将来の歳入・歳出、基金、市債
の状況を見据え、三豊市の身の丈
に合った財政規模を明らかにした
上で、必要な分野へ重点的に財源
を配分し、既存事業の廃止・縮小・
実施方法の見直しを進める。
以上、各議案とも慎重審査によ
り、原案どおり認定した。

*プラットフォーム…サービスやコンテンツを提供するための共通基盤となる環境
*経常収支比率…人件費、扶助費、公債費等の経常経費に、地方税、地方交付税を中心とする経常一般財源収入がどの程度充当されているかを表す指標
*実質公債費比率…一般会計等が負担する借入金の返済額及びこれに準ずる額の大きさを指標化したもの
*将来負担比率…地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の残高を指標化したもの



▲ふるさと納税
(フルーツ定期便)

問 寄附額増に向けた取り組みや観光や商業と組み合わせた返礼品開発について伺う。

答 これまでの取り組みを検証し、寄附額拡大に向けて全国に誇れる地域資源を改めて掘り起こすとともに、三豊市の強みでもあるフルーツを重点的に強化していきたい。

観光や商業と連携した返礼品は、経済への波及効果も高く、本市の持つ豊かな自然や観光資源、商業施設と組み合わせた返礼品を拡充させ、今後は観光や飲食、宿泊などと連携をさらに進め、本市ならではの体験型返礼品の開発を進めることで、地域内消費や関係人口の創出につなげていく。



大平国明
議員

ふるさと納税について

防災対策について

問 避難所管理体制や一般の災害ボランティア派遣について伺う。

答 本市では、「避難所管理運営標準マニュアル」に基づき、避難者数の把握、トイレ確保等を確認できるチェックリストを運用しており、避難所の状況については各担当職員から随時報告を受ける体制を整えている。「地域防災計画」の修正に合わせ、管理運営マニュアルを見直し、現場で誰もが適切に使用できる様式の作成、効果的な運用方法の構築を図り、防災訓練等で活用する。

災害ボランティアについては、派遣体制や派遣場所の範囲、防災士会との連携等について、社会福祉協議会など関係機関と連携を図り、具体的な仕組みづくりを協議検討する。

その他の質問
○新設豊中小学校の児童の熱中症対策と小学校跡地の進捗状況確認



問 全国で地方自治体の財政悪化が報じられる中、三豊市も厳しい状況にある。災害時の支援金や復旧費用による財政圧迫の事例を踏まえると、現在の貯金（財政調整基金）40億円では、大規模災害が起きた際の財政運営が直ちに行き詰まる懸念がある。事務事業の見直しで一定の成果はあるものの、経済的損失を防ぐ事前対策の徹底と財政体制の強化が必要と考える。そこで、現在の財政状況の評価と、立て直しの財源になり得る「ふるさと納税」の寄付目標額および見通しについて市の考えを問う。

答 本市の財政は、将来の借金返済（公債費）増加や経常収支比率の高止まりなど厳しい状況にあるが、直ちに危機的ではない。事務事業の見直しやデジタル活用（※AX/※DX）で経費削減を進める。災害への備えとなる貯金（財政調整基金）は、市民サービスとのバランスを考慮し40億円を目安とする。

災害時を想定した財政運営はできているのか



瀧本哲史
議員



▲今回の一般質問の要旨

※AX(AI Transformation)…AI(人工知能)を業務の中核に据え、組織のあり方を根本から変革する取り組み
※DX(Digital Transformation)…デジタル技術を活用して業務やビジネス、組織そのものを変革し、新たな価値を生み出す取り組み

令和8年第3回(9月)定例会 審議結果

議場にいた全員が賛成した議案

議案名等	
令和7年度三豊市一般会計歳入歳出決算認定について	令和8年度三豊市病院事業会計補正予算(第2号)
令和7年度三豊市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	令和8年度三豊市集落排水事業会計補正予算(第2号)
令和7年度三豊市国民健康保険診療所事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市公私連携保育法人審査委員会設置条例の制定について
令和7年度三豊市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定について	社会保険診療報酬支払基金法の一部改正に伴う関係条例の整理について
令和7年度三豊市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市公告式条例等の一部改正について
令和7年度三豊市介護サービス事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市印鑑条例の一部改正について
令和7年度三豊市浄化槽整備推進事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市税条例の一部改正について
令和7年度三豊市港湾整備事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
令和7年度三豊市国道用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算認定について	三豊市文化会館条例の一部改正について
令和7年度三豊市病院事業会計決算認定について	三豊市山本ふれあい公園条例の一部改正について
令和7年度三豊市集落排水事業会計決算認定について	人権擁護委員候補者の推薦について(三宅 和志)
令和8年度三豊市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	人権擁護委員候補者の推薦について(河田 治)
令和8年度三豊市国民健康保険診療所事業特別会計補正予算(第2号)	人権擁護委員候補者の推薦について(白井 基)
令和8年度三豊市後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	自動運転実証実験の路線延伸に伴う安全性検証・住民合意形成および将来計画の明確化に関する陳情(一部採択)
令和8年度三豊市介護保険事業特別会計補正予算(第2号)	議員派遣について(9月8日議決分)
令和8年度三豊市浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第1号)	議員派遣について(10月2日議決分)
令和8年度三豊市港湾整備事業特別会計補正予算(第1号)	

賛否が分かれた議案

議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	議決結果
	篠原 一馬	大平 国明	眞鍋 範子	香川 貴志	伊藤 幸洋	青井 和樹	丸戸 研二	高木 修	井出喜久美	近藤 武	瀧本 哲史	湯口 新	水本真奈美	込山 文吉	浜口 恭行	詫間 政司	田中 達也	石井 勢三	市川 洋介	城中 利文	
令和8年度三豊市一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	原案可決 (賛17、反2)

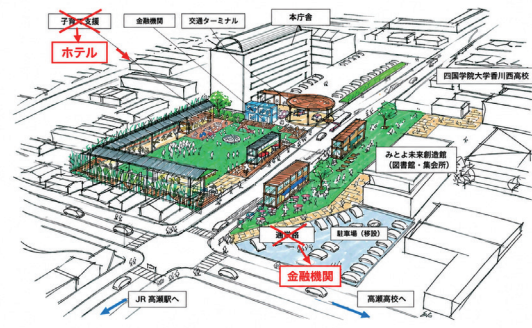
※○：賛成 ●：反対 欠：欠席 退：退席 除：除斥 ※議長は可否同数の場合のみ表決権があります。(議長 18番 石井勢三)
▲人事案件については敬称を省略しています。



三豊市ブランドデザインの
進捗と今後の方針

問 平成31年3月の策定から7年以上が経過した。策定に要した経費、本庁舎周辺の進捗、民間活力との連携、今後の方針とスケジュールを問う。

答 策定業務の委託料は3040万2千円で全額一般財源。本庁舎隣接地を取得できず、当初の将来イメージどおりの整備は困難となった。一方、ホテルや金融機関の進出を好機と捉え、民間活力を生かしたにぎわいづくりを検討する。



▲本庁舎周辺の将来イメージと変更後の施設配置

高瀬線・荘内線の
デマンド交通への移行

問 高瀬線・荘内線をデマンド交通へ移行する理由と運行内容を問う。また、財田町では決められた場所（自宅前）から決められた場所（乗降場所）まで利用できる乗合タクシーとコミュニティバスを併用している。地域住民や交通事業者の声を聞き、地域の実情に合った交通体系を検討すべきではないか。

答 高瀬・荘内は交通空白地に準ずる地域で、令和8年度内の開始を目指す。14人乗りの車両を各1台導入予定。地域のニーズに応じた交通サービスが重要であり、交通ネットワークの再構築を進める。

生活道路の法定速度時速
30kmへの引下げ

問 9月1日から生活道路の法定速度が原則時速30kmとなった。対象道路を市民に分かりやすく周知し、交通安全意識の向上につなげるため、どのような啓発を行うのか。

答 広報紙、ホームページ、LEINE等で情報提供するとともに、三豊警察署と連携した交通キャンペーンや学校での交通安全教室を通じ、継続的に周知・啓発していく。



公共施設の長寿命化と
ファシリティマネジメント
（以下FＭ）について

問 個別施設計画の見直しに当たり、施設の重要度や利用状況だけでなく、ライフサイクルコスト（以下LCC）を踏まえた優先順位付けをどのように行うのか聞く。

答 公共施設管理の統一基準を策定し日常点検を実施し、施設情報を更新する。固定資産台帳にて一元管理を行う。客観的判断を行い、長寿命化を図る。FＭ導入を検討し、点検評価の課題の専門性不足を認識し、総合的分析を重視した包括管理を基盤にFＭ推進を図る。LCCで優先判断し、予防保全へ転換する。

年金増額が負担増につながる
制度の矛盾と、高齢者の生活を
守るための対応について

問 年金の物価スライドによる増額分が実質所得を減少させることの認識を持っているのかを聞く。

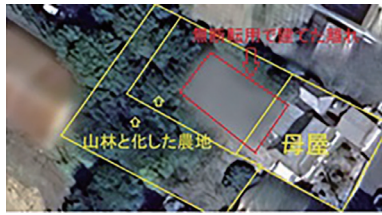
答 昨年度は非課税、なぜ今年は課税になるのかといった問い合わせが多数ある。年金の物価スライドは国が決定するもので、市



無断転用農地をめぐる相続人
への救済と未然防止策について

問 無断転用農地を相続した人が、思いもよらない負担を背負うケースがある。今後、農業をする意思も能力もない相続人に家屋解体や構造物の除去工事などの膨大な費用を負担させてまで現状回復を求めることへの是非や相続人への救済、また、課税と農地法の整合性の確認や未然防止策について問う。

答 相続人に一律の現状回復を求めることは過大な負担となり、得るため転用の経緯や復元可能性、意向を確認し個別に対応する。復元が著しく困難な土地は非農地判断を行う考えが国から示されている。課税と農地法は基準が異なる。相続を契機とした情報提供や、税務課と農業委員会の連携を検討する。



▲相続した後に無断転用と判明した農地

みとよ市民病院における宿泊型
産後ケア事業の実施について

問 前回に続き、宿泊型産後ケアをみとよ市民病院で実現するため、外部助産師の活用、個室を生かした療養環境、産後うつ予防と市内の受け皿づくり、赤字経営改善との両立について問う。

答 みとよ市民病院での実施は、現時点では慎重にならざるを得ない。一方、市内での実施に向けて、今後利用の有無にかかわらず出産した全ての方へアンケートを実施し、求められる支援や利用しやすい環境を把握して、支援内容の改善に努める。その結果をもとに、市内での実現の可能性を、健康福祉部と調査・研究していく。

問 アンケート調査は、妊婦や子育て世代も対象とし、産後早期の支援の実現を求める。



香川県民の日を活用した
郷土愛の醸成について

問 12月3日の「香川県民の日」を、子どもたちをはじめ市民の皆様が香川や三豊の魅力を知り、郷土への愛着を育む機会として、どのように活用するのか。

答 市制施行20周年記念事業の一環として、宝山湖フェスティバルを拡充するほか、地域の魅力を体験できる取り組みを実施する。県と連携し、分かりやすく周知していく。今後も「ふるさと香川」「ふるさと三豊」への愛着や誇りにつながる取り組みを継続して進めていく。

子どもの育ちを支える居場所と
地域資源の活用について

問 子どもの年齢やニーズに応じた多様な居場所づくりには、施設整備だけでなく、遊びや体験などソフト面の充実も重要である。子どもの育ちを支えるため、公園など既存の地域資源をどのように活用し、多様な遊びや体験の場へとつなげていくのか。



税等の算定も、地方税法等の上位法が根拠となる。三豊市独自の制度変更は現実的ではなく、国の施策次第となるため国の動向を注意していく。

問 社会福祉法等の一部を改正する法律が成立した。包括的支援体制の構築や、アウトリーチによる早期発見、早期支援の充実が重視されている。地域共生社会実現の考えを聞く。

答 本市の実情に即した連携体制や支援のあり方を検討し、社会福祉協議会、民生委員、医療機関、介護サービス事業者、成年後見制度に関する相談支援機関、必要に応じて金融機関や葬祭等の関係機関とも情報共有を図り、支援が必要な方を適切な機関につなぐ仕組み作りを進めていく。

答 市内には約60の公園があり、関係部署で情報共有や活用について検討している。ミクスポ「100円アリーナ」開放は、屋内の子どもたちの新たな居場所の一つとなった。子育て支援アプリ等も活用し、子どもや子育て家庭の声を丁寧に向いながら、子育て応援サービス券の対象拡充など、地域や民間との連携も含め、より多様な「遊びと体験」の場の充実に取り組む。



▲▲去年の「宝山湖フェスティバル」の様子
今年は市制施行20周年記念事業の一環として「香川県民の日創設記念 宝山湖フェスティバル2026」を11月8日（日）に開催予定



AIは質問者がAIで生成した画像です
原稿は質問者本人が書いています



猛暑期の災害対応について

問 本年7月に熊本地震が発生した。真夏の発災により、熱中症対策や避難所環境の整備など、この災害からどのような教訓を得たのか。

答 猛暑期の災害対応では、命を守るための避難に加え、避難した後の命を守るという視点が重要である。

熊本地震の支援活動から得た経験と避難所の調査結果を踏まえ、地域防災計画の修正、備蓄、避難所環境受援体制などの充実を図りたい。いづどのような状況で大規模災害が発生しても、想定内が想定外という心構えで、市民の命と健康を守ることができるよう努めたい。

問 松崎小学校は高台で津波の被害を受けないが、屋内運動場への空調設備の導入はいつなのか。

答 令和9年度から10年度にかけて移動式エアコンを導入する。避難所の生活環境を確保する観点から可能な限り前倒しを検討したい。



歩車分離式信号の導入について

問 詫間町のおおした歯科医院付近交差点は通学・通勤で混雑し危険である。歩車分離式信号を導入してどうか。渋滞懸念に対しては、登下校時間帯限定の運用や押しボタン式の併用といった柔軟な解決策を提示し、市が主導して警察等へ積極的に協議・要望を行うべきでは。

答 歩車分離式信号は安全確保に有効である一方、渋滞や公安委員会の管轄である点など総合的な検討が必要である。その上で、時間帯限定や押しボタン式の併用といった柔軟な手法も含め、関係機関と協議や現場点検を行い、地域の実情に応じた実現可能な方法を検討していく。



▲詫間町のおおした歯科医院付近交差点

自動運転バスについて

問 詫間地区では3回目の実証運行が実施されているが、市民からは費用対効果や安全性、導入の必要性について様々な意見が寄せられている。自動運転バスやデマンド交通の本市の位置づけを聞きたい。

答 公共交通自体が成り立たなくなる、そのような事態にならないための有効な手段として、自動運転の先端技術やデマンド交通への移行を取り入れ、公共交通を再構築していく事が重要であると考えている。

問 自動運転バスは、平日の運送トラックや会社関係の車両も多い中で、後続の車両が数珠つなぎになっていることへの苦情も多い。今のままで良いのか。

答 地域の皆様にはご不便をおかけしている。公共交通の維持確保、市民生活を守るために、ご理解と協力をお願い申し上げたい。

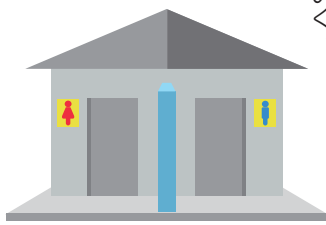


▲後続車両が連なっている自動運転バス

志々島への公衆トイレの設置について

問 志々島は近年観光客が増加(年間約7500人)しているが、自由に使える清潔な公衆トイレが不足している。環境保全や島民の衛生環境を守るため、バイオトイレ等の導入やクラウドファンディングによる財源確保を含め、設置・改修に向けた市の見解を伺いたい。

答 公衆トイレが港から離れた和式である等の課題を認識し、現在は土、日、祝日に「老人いこの家」の洋式トイレを開放して対応している。設置場所や維持管理費、継続的な財政負担等の整理が必要だが、バイオトイレ等の技術導入やクラウドファンディングの活用は有効な選択肢である。他自治体の事例調査や補助制度の活用を含め、持続可能な整備に向けて検討を進めていく。



その他の質問
○市役所の窓口開庁時間について
○公的精神科医療の存続について



農林水産業事業団について

問 事業団の法的な組織形態、担すべき具体的な事業、組織の規模や職員体制、市と民間関係団体との役割分担や設立時の財源、設立後の財源について、具体的にどのような検討が行われ、現在どこまで具体化しているのか。

答 この半年間の検討を通じて、既存農業法人やJA、集落営農組織、土地改良区等と競合するのではなく、それぞれが持つ機能やノウハウを生かしながら、行政だけでは担いきれない地域課題について、民間の人材と結びつけて解決していくことが重要であるとの方向性については整理が進んでいる。令和8年度に必要な機能と役割を整理し、令和9年度以降の具体的な制度組織設計につなげていく。



▲食害にあった桃



カマタマレ讃岐と三豊市の食を通じた持続的な連携について

問 市制施行20周年記念事業の一つに、カマタマレ讃岐との「三豊市サンクスDAY」が企画されており、三豊の農作物の加工品を販売する。一日だけの販売やPRで終わらせるのではなく、カマタマレ讃岐と三豊の食を通じた持続的な連携につなげていく考えを問う。

答 三豊市とカマタマレ讃岐とのつながりをさらに深める機会にしたいと考えている。三豊市が誇る食を通じてさらに交流を深めていく地域連携の形として取り組む。



▲10月4日(日)に開催した「三豊市サンクス DAY」

持続可能な鳥獣被害対策について

問 鳥獣被害対策の効果はどう把握し活用しているのか、また捕獲能力を把握し対策すべき猟銃を含む専門的な捕獲人材の確保や捕獲技術の向上について、免許取得から技術継承までの一つの仕組みが必要ではないのか。

答 農作物被害は鳥獣の種類ごとに被害状況や被害金額を、捕獲実績は捕獲頭数のほか、捕獲場所を地図上に記録し、地域ごとの人数、年齢、実際の活動状況などを踏まえ、地域ごとの捕獲する力を捉えることが重要である。5年、10年先に地域の捕獲力を維持できるのかという視点を持ち、地域の捕獲力の見える化、人材確保、活動支援、技術継承に取り組んでいく。



▲荒らされた水田で悲しみにくれる農家

流域治水と県管理河川の流下能力向上について

問 市域内の急激な冠水の現状を踏まえ、市河川の流下能力向上と適正な維持管理、遊水地の検討、県河川の流下能力向上と、上流域の地面保水力向上による流域治水の考えについて質問してきた。県河川へ流れ込む流量調査について、これまでの検討状況を問う。

答 竿川(県河川)に流入する加奈子川(市河川)およびその上流域の水路は、必要な流下断面に対して不足していることが確認されているため、必要断面を検討している。また、豪雨に備えたため池の水位調整や田んぼダムの推進、多面的機能支払交付金事業を活用した農地や水路の維持管理等、地域と連携し取り組む。



その他の質問
○ふるさと住民登録制度を活用した新たな教育・関係人口政策について

※遊水地…川の水が増えたときにあえて水を一時的にため、下流へ流れる水の量を減らし、洪水からまちを守るための土地や施設

湯口 新 議員



避難行動要支援者登録制度について

問 この制度は目的通りに登録や運用が進めば発災時にはかなり有効であり重要な施策だと思いが実効性のあるものとなっているのか。

答 避難行動要支援者登録制度は災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害のある人などを平時から把握し、民生委員や自治会長などの避難支援等関係者と情報を共有することで、日頃からの声かけや見守り活動、災害時における地域社会の共助による避難支援等が受けられる体制を整備することが目的。実効性を高めるために、登録者ごとに支援者や避難場所、避難方法等を記載する個別支援計画を作成することが重要だが、作成率が低い。作成率を向上させ、地域における共助の意識をさらに高め、より実効性のある避難支援体制の構築に努める。

部活動の地域展開について

問 部活動の地域展開によって取り残されている生徒が出ていないか。

田中達也 議員



避難所の生活環境（QOL）向上と災害時における生活用水確保について

問 大規模災害時の避難所生活用水確保と、外部支援の限界への認識を問う。

答 衛生環境の維持に水確保は不可欠。能登・熊本地震のように道路寸断等で外部支援が滞る事態も想定し、地域内水源の確保を組み合わせる。

問 私有・公有の井戸を体系的に活用する仕組みづくりを問う。

答 県の「災害時等応急用井戸登録制度」と連携し、井戸の所在・所有者意向等を把握した上で登録・活用の仕組みを構築する。

問 海水淡水化装置や循環式手洗いユニット等、分散型水インフラの導入方針を問う。

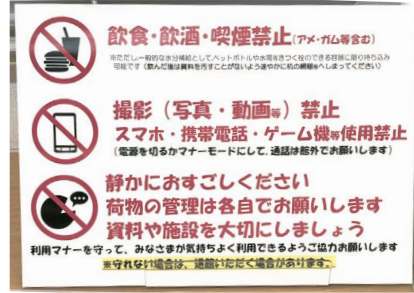
答 今年度中の地域防災計画修正で、井戸・受水槽・浄水淡水化設備など地域特性に応じた水源の多重化を検討し、導入可能性を調査する。

答 部活動の地域展開は中学校教育におけるかつてない歴史的な制度改革。大きく二つ、「交通」と「経済的負担」の課題がある。その他にも様々な課題があるが、できるだけ解決し、生徒たちのための放課後改革を進めていきたい。

市内図書館（図書室）の今後

問 「縮充」という方針の下、図書館は「縮小」していくだけではないか。図書館の「充実」を進めてほしい。

答 市民アンケートや図書館利用者アンケートの結果、図書館協議会委員の意見等を反映した「第4期三豊市生涯学習計画」の方針を実現していくため、外部のアドバイザーの意見も伺いながら、地域がより元気になるような活気ある図書館サービスの実現に向けて取り組む。



▲全国的にはおしゃべり・飲食OKの図書館が増えて人気を博している

問 優先的に導入を検討する地域・避難所を問う。

答 島しょ部、半島部、孤立可能性の高い地域、心急救護所併設の避難所を重点的に検討する。

問 総合防災訓練等でメーカーのデモ機による実証実験を提案する。

答 11月末の地震災害対処訓練で、条件が整えばデモ機導入を取り入れ、操作性や電源、維持管理を確認する。

問 災害時の水確保について市長の考えを問う。

答 飲料水以上に生活用水の確保・循環が課題であり、近隣県との設備融通の事例もある。リアリティのある防災計画づくりを進める。



▲軽トラに積載できる淡水化装置

原稿は質問者本人が書いています

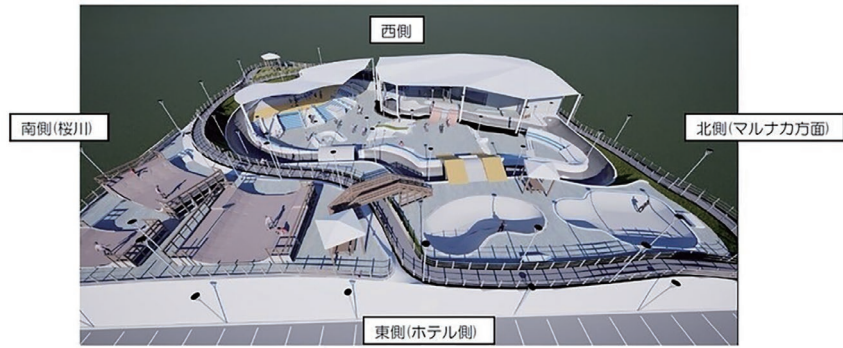
香川貴志 議員



にぎわい創出について

問 現在のにぎわい創出の取り組みと成果、今後の展望は。

答 自然環境や歴史的資源を生かし、企業や移住者、地域住民と公民連携で取り組んでいる。



▲公設の「須崎市立スケートパーク（サクラバンダ）」
出典：須崎市ホームページ

問 若者の挑戦を後押しするため、仁尾運河の活用を。また若者の流出抑制に向け、造船所跡地へのスケートパーク整備を提案する。

答 仁尾運河の整備は香川県と協議する。造船所跡地での整備は困難だが、スケートパークは慎重に調査研究する。

問 スケートパークは市内の別の場所への整備も検討しては。

答 ミクスポと共に、アーバンスポーツについて事例を参考に調査研究する。

中高年齢者の健康対策について

問 現在の取り組みや成果、今後の展望は。

答 みとよSTEPプロジェクトを中心に様々な活動を行い、成果を上げている。

問 さらなる成果に向け、他地域の事例を紹介し、市独自のポイント制度導入を提案する。

答 事業を進めながら、他団体の事例や費用対効果を調査研究する。

その他の質問

○豊中地区旧小学校の今後の利用について

議会 日誌

7月	14日	教育民生常任委員会 会派会長会	15日	全国離島振興市町村議会議長会	17日	全国市議会議長会地方行政委員会	21日	三豊総合病院企業団議会 公共施設再配置特別委員会 議会運営委員会	22日	市民建設常任委員会	24日	市民建設常任委員会	27日	市民建設常任委員会
8月	3日	県離島振興市町村議会議長会 議会運営委員会	4日	県市町総合事務組合議会	10日	教育民生常任委員会	12日	広報広聴常任委員会	17日	決算・事務事業評価特別委員会 会派会長会	18日	総務常任委員会	20日	市民建設常任委員会
	21日	公共施設再配置特別委員会 議会運営委員会	26日	三観広域行政組合議会	28日	中部ボートレース事業組合議会	31日	中部ボートレース事業組合議会						
9月	3日	本会議 全員協議会	7日	総務常任委員会	8日	本会議（一般質問）	9日	本会議（一般質問）	10日	本会議（一般質問）	11日	決算・事務事業評価特別委員会 総務常任委員会	14日	総務常任委員会
	15日	教育民生常任委員会	16日	市民建設常任委員会	18日	高瀬高等学校との意見交換会	24日	決算・事務事業評価特別委員会 会派会長会	25日	決算・事務事業評価特別委員会	28日	三豊市観音寺市学校組合議会	29日	三豊市観音寺市学校組合議会 会派会長会
	30日	議会運営委員会 全員協議会												
10月	2日	本会議	5日	広報広聴常任委員会	8日	公共施設再配置特別委員会	9日	広報広聴常任委員会						

※QOL (Quality of Life) …個人が自分の生活に対して持つ充実感や満足感を持っているかという認識
※分散型水インフラ…集落等において地域の水源から取水し、小型の浄水処理装置により浄水処理をして配水する小規模な水道施設

総務常任委員会

9月14日開催の総務常任委員会には、2議案と陳情1件が付託され審査した



市民建設常任委員会

9月16日開催の市民建設常任委員会には、6議案が付託され審査した



主な質疑と答弁

令和8年度三豊市一般会計補正予算(第2号)中の関係部分

問 小学校売却に伴う防災行政無線屋外子局の移設内容はどのようにしているか。

答 基本は敷地内に据え置く方針だが、旧神田小学校は購入者の希望により小学校北側へ移設する。

問 自己都合退職による減額に対し、組織の業務体制維持をどう考えているか。

答 リスク管理として予測済みの数値。今後も職員の定着と働きやすい職場作りに努める。

問 ソーシャルスタートアップ支援事業は、どのように事業認定したのか。また、その成果をどう測るのか。

答 外部有識者による審査委員会においてプレゼンテーション審査(計画書や発表)で認定した。成果はKPIで判断し、事業完了後は補助事業について寄り添いながら推移を見守っていく。

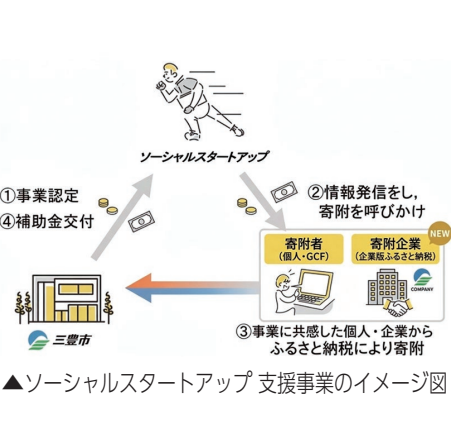
問 寄附金集めの仕組みはどうなっているか。

答 ホームページで6事業ごとに寄附を募り、集まった金額に応じて補助金を交付する。

問 竹林再生事業の選定理由や将来

性、過去の市の取り組みとの関係性はどうか。

答 これまでの市の取り組みを踏まえたものではないが、審査会で継続性を評価し認定した。



以上、各議案とも慎重な審査により、原案どおり可決した。

陳情第8号自動運転実証実験に関する陳情

問 6月の附帯決議の内容と重なる部分がある。報告を求める。

答 7月中旬に詫間町内の全自治会長を訪問、町内で全戸回覧を行った。小中学校、ルート上の企業も訪問し、協力をお願いした。

当陳情については、6月の附帯決議との整合性を鑑み、一部採択すべきものと決した。

教育民生常任委員会

9月15日開催の教育民生常任委員会には、11議案が付託され審査した



主な質疑と答弁

令和8年度三豊市一般会計補正予算(第2号)中の関係部分

問 難聴児への補聴器購入補助の増額について①対象児童の要件は。

②対象となる難聴児は増加傾向か。③補助制度の周知方法をどう。

答 ①身体障がい者手帳を持っていない難聴児を対象とし、医師の診断書を提出してもらい、補聴器購入の補助を行っている。②概ね年間2〜3件の申請がある。③広報紙や市のホームページで周知している。医療機関から対象者への案内実施状況の確認と制度の周知徹底を図る。



問 豊中地区旧小学校のアスベスト調査の必要性和実施時期を伺う。

答 鑑定評価のため事前に調査する必要がある。豊中地区旧小学校5

校の内3校は実施済みで、残る2校は10月中をめどに完了したい。

三豊市公私連携保育法人審査委員会設置条例の制定について

問 設置後のスケジュールについて。

答 10月上旬に審査委員会を開催し候補者を選定した後、市が最終決定する。その後、協定を締結し、来年度以降の運営について協議する。

三豊市文化会館条例の一部改正について

問 料金改定には賛成だが、市民センター詫間の使用料を非常に安く設定している。民間事業者への圧迫につながる可能性がある。市の考えは。

答 マリンウェーブは、文化・健康づくり目的の施設で、今年度末に指定管理者の更新時期を迎える。指定管理者には企業努力を求めるとともに、指定管理料も含め、今後の審査の中で適切に判断していく。

以上、各議案とも慎重な審査により、原案通り可決した。

議会防災訓練 特集

災害に備えて防災訓練を行いました

9月30日に議員全員が参加して、大地震の発生を想定した防災訓練を行いました。

災害など緊急時においても議会の機能を継続し、議会運営が滞ることがないように「三豊市議会業務継続計画」を策定しています。今回は、登庁が困難な状況でのリモート会議をテスト実施し、課題の有無を検証しました。今後も定期的な訓練を通じて、さらなるブラッシュアップを図ります。

第1部 緊急避難訓練



第2部 スマホによる安否情報送信訓練



第3部 Zoomを用いてリモート会議をテスト実施



行う委託料である。

問 建築住宅課で、市営住宅の残置物処理のために委託料を計上しているが、今後も同様のケースが発生する可能性はあるのか。また、増額分は修繕料から組み換えをしているが、今後、修繕料に不足が生じる心配はないのか。

答 今回は相続放棄がなされたため、市で残置物を撤去することになった。同様のケースが今後も生じる可能性はあるが、可能な範囲で対応に取り組んでいきたい。また、修繕料は年度当初からの実績をふまえ、必要な分は確保した上で組み替えを行っている。



以上、各議案とも慎重な審査により、原案通り可決した。

※ソーシャルスタートアップ…社会課題の解決とビジネスを両立させる起業のあり方